



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月5日 東

上場会社名 株式会社ミクシィ 上場取引所  
 コード番号 2121 URL <http://mixi.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森田 仁基  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営推進本部長 (氏名) 荻野 泰弘 (TEL) 03-6897-9500  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	150,285	120.1	67,305	124.9	66,999	123.5	44,032	130.5
27年3月期第3四半期	68,265	973.7	29,927	—	29,979	—	19,104	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 44,030百万円(129.3%) 27年3月期第3四半期 19,199百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	532.60	532.35
27年3月期第3四半期	237.50	236.88

(注) 当社は、平成26年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	140,179	104,521	74.6
27年3月期	104,178	53,570	51.4

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 104,512百万円 27年3月期 53,556百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	23.00	—	59.00	82.00
28年3月期	—	70.00	—		
28年3月期(予想)				72.00	142.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	205,000	81.5	90,000	70.8	90,000	70.8	59,000	79.0	710.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、四半期決算短信(添付資料)P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	84,295,500株	27年3月期	83,203,000株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	33,000株	27年3月期	2,592,500株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	82,674,478株	27年3月期3Q	80,439,425株

(注) 当社は、平成26年7月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により、これらを業績見通しとは異なる結果となることをご承知の上、投資判断を下される様お願い致します。業績予想の前提となる仮定等につきましては、四半期決算短信(添付資料)P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
2. 当社は、平成28年2月5日に機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。当日使用する決算説明会資料は、速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(企業結合等関係)	11
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同四半期比 増減率
売上高(百万円)	68,265	150,285	120.1%
営業利益(百万円)	29,927	67,305	124.9%
経常利益(百万円)	29,979	66,999	123.5%
親会社株主に帰属する四半 期純利益(百万円)	19,104	44,032	130.5%

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に、個人消費や企業業績の改善がみられるなど景気は緩やかな回復基調が続いているものの、中国経済の減速をはじめとした世界経済の下振れ懸念などにより、先行きに対しては不透明な状況が続いております。

インターネット関連業界におきましては、株式会社MM総研の調査によると、平成27年9月末のスマートフォン契約数は7,237万件で、携帯電話端末契約数全体の56.9%と過半数にまで達しており、今後もスマートフォン契約数は拡大するものと予測されます。

このような経済環境の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は150,285百万円（前年同四半期比120.1%増）となりました。また、営業利益は67,305百万円（前年同四半期比124.9%増）、経常利益は66,999百万円（前年同四半期比123.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は44,032百万円（前年同四半期比130.5%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

なお、前連結会計年度末において、報告セグメントの名称及び区分方法を変更しております。

また、前連結会計年度から事業セグメントの利益の測定方法を、減価償却費及びのれん償却額を考慮しない営業利益ベースの数値（EBITDA）に変更しております。

以下の前年同四半期比較及び分析については、変更後の区分に基づいて記載しております。

## ① エンターテインメント事業

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同四半期比 増減率
売上高(百万円)	60,025	140,303	133.7%
セグメント利益(百万円)	29,825	70,348	135.9%

スマートフォンネイティブゲーム「モンスターストライク」は、簡単な操作で誰でも楽しめること、一緒にいる友人と協力する仕組み（マルチプレイ）が特長であり、利用者が順調に増加してまいりました。国内では、TVCM、屋外広告等のプロモーション、動画コンテンツの充実、リアルイベントの実施、アーケードゲームやグッズの製作、映画や人気アニメとのタイアップなどに加え、オリジナルアニメの配信やニンテンドー3DS版の販売を行ってまいりました。また、海外においても台湾・北米・韓国・中国・香港・マカオと展開を進めた結果、平成27年9月には全世界での利用者数（中国の利用者数を除く）が3,000万人を突破いたしました。今後もユーザーの皆様の期待に応えるべく、平成27年8月には「ケタハズレな冒険を。」を旗印に、バトルコンテンツを創出する「XFLAG（エックスフラッグ）」スタジオを立ち上げ、エンターテインメント事業のさらなる発展を図っております。

収益面では、利用者の増加や様々なメディアを通じて露出するメディアミックスの効果に伴い売上高・利益ともに順調に拡大しております。

この結果、当事業の売上高は140,303百万円（前年同四半期比133.7%増）、セグメント利益は70,348百万円（前年同四半期比135.9%増）となりました。

## ② メディアプラットフォーム事業

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同四半期比 増減率
売上高(百万円)	8,240	9,981	21.1%
セグメント利益(百万円)	1,868	2,013	7.8%

メディアプラットフォーム事業では、SNS「mixi」で培い、「モンスターストライク」を大きく飛躍させたマーケティング・アプリ開発・カスタマーサポートなどのノウハウを元に、B2C及びC2Cサービスにおいて新しい文化を創るサービスを生み出し続けることを目指しております。

前連結会計年度末に取得したチケットフリマサービス「チケットキャンプ」においては、「mixiコミュニティ」との連動企画を行うことで双方の事業拡大を図っており、平成27年7月からは国内TVCMの放映も開始しております。また、社内発の新規事業においては、アーティストがユーザー1人のためにライブを行うコミュニケーションサービス「きみだけLIVE」や、家族に特化した子どもの写真・動画共有アプリ「家族アルバム みてね」などを立ち上げ、順調に利用者を拡大しております。

この結果、当事業の売上高は9,981百万円（前年同四半期比21.1%増）、セグメント利益は2,013百万円（前年同四半期比7.8%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 財政状態

当第3四半期連結会計期間の財政状態は、資産については流動資産が116,730百万円（前連結会計年度末比33,360百万円増加）となり、主な要因としては、現金及び預金の増加があげられます。固定資産は23,448百万円（前連結会計年度末比2,640百万円増加）となり、主な要因としては、繰延税金資産の増加があげられます。

負債については、流動負債が35,570百万円（前連結会計年度末比15,037百万円減少）となり、主な要因としては、短期借入金の減少があげられます。固定負債は87百万円（前連結会計年度末比87百万円増加）となり、主な要因としては、繰延税金負債の増加があげられます。純資産は104,521百万円（前連結会計年度末比50,950百万円増加）となり、主な要因としては、利益剰余金並びに海外募集に伴う資本金及び資本剰余金の増加があげられます。

## ② キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、前連結会計年度末と比べて24,967百万円増加し、90,380百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は31,927百万円（前年同四半期は26,303百万円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払による減少33,758百万円があったものの、税金等調整前四半期純利益が66,934百万円となったことによるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は1,066百万円（前年同四半期は53百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産及び投資有価証券の取得による支出1,044百万円によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第3四半期連結累計期間において財務活動により使用した資金は5,893百万円（前年同四半期は1,055百万円の使用）となりました。これは、海外募集に伴う株式の発行による収入5,090百万円及び自己株式の処分による収入12,231百万円並びに新株予約権の権利行使に伴う自己株式の処分による収入15百万円があったものの、短期借入金の返済による支出13,348百万円及び配当金の支払い9,882百万円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成27年5月12日に公表しました通期の連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、平成28年1月21日に公表しました「業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等  
を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第3四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額ははありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	65,413	90,380
売掛金	15,738	23,765
その他	2,236	2,596
貸倒引当金	△18	△12
流動資産合計	83,370	116,730
固定資産		
有形固定資産	624	903
無形固定資産		
のれん	14,192	12,084
その他	44	341
無形固定資産合計	14,236	12,426
投資その他の資産		
投資有価証券	2,313	2,704
その他	3,639	7,416
貸倒引当金	△5	△2
投資その他の資産合計	5,947	10,118
固定資産合計	20,808	23,448
資産合計	104,178	140,179
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	13,348	—
未払金	4,812	6,815
未払法人税等	23,218	15,527
未払消費税等	5,697	4,171
賞与引当金	592	220
その他	2,937	8,835
流動負債合計	50,608	35,570
固定負債		
繰延税金負債	—	87
固定負債合計	—	87
負債合計	50,608	35,658
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,034	9,698
資本剰余金	7,007	20,427
利益剰余金	40,744	74,122
自己株式	△1,515	△19
株主資本合計	53,271	104,229
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	285	282
その他の包括利益累計額合計	285	282
新株予約権	8	3
非支配株主持分	4	5
純資産合計	53,570	104,521
負債純資産合計	104,178	140,179

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	68,265	150,285
売上原価	7,051	18,390
売上総利益	61,213	131,895
販売費及び一般管理費	31,286	64,589
営業利益	29,927	67,305
営業外収益		
受取利息	4	18
為替差益	49	0
その他	12	7
営業外収益合計	66	26
営業外費用		
支払利息	1	15
投資事業組合運用損	6	75
株式交付費	—	238
その他	5	3
営業外費用合計	13	333
経常利益	29,979	66,999
特別利益		
新株予約権戻入益	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産除売却損	42	18
投資有価証券評価損	—	47
特別損失合計	42	65
税金等調整前四半期純利益	29,939	66,934
法人税、住民税及び事業税	11,504	25,970
法人税等調整額	△669	△3,067
法人税等合計	10,834	22,902
四半期純利益	19,104	44,031
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	19,104	44,032



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	19,104	44,031
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	94	△1
その他の包括利益合計	94	△1
四半期包括利益	19,199	44,030
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,199	44,029
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	29,939	66,934
減価償却費	136	442
のれん償却額	217	1,751
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△21	△8
賞与引当金の増減額(△は減少)	△149	△371
受取利息	△4	△18
支払利息	1	15
為替差損益(△は益)	△34	△0
投資事業組合運用損益(△は益)	6	75
株式交付費	—	238
固定資産除売却損益(△は益)	42	18
売上債権の増減額(△は増加)	△10,327	△8,026
未払金の増減額(△は減少)	2,190	2,098
未払消費税等の増減額(△は減少)	3,295	△1,526
その他	1,476	4,065
小計	26,767	65,687
利息の受取額	4	13
利息の支払額	△1	△15
法人税等の支払額	△467	△33,758
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,303	31,927
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	1,000	—
有形固定資産の取得による支出	△108	△475
無形固定資産の取得による支出	△4	△58
投資有価証券の取得による支出	△914	△568
投資有価証券の分配による収入	31	57
その他	△57	△21
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53	△1,066
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	599	△13,348
株式の発行による収入	—	5,090
自己株式の処分による収入	98	12,247
配当金の支払額	△1,754	△9,882
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,055	△5,893
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	25,247	24,967
現金及び現金同等物の期首残高	16,818	65,413
現金及び現金同等物の四半期末残高	42,065	90,380

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成27年7月30日を払込期日とする海外募集により、新株式の発行及び自己株式の処分を行いました。これに伴い資本金及び資本準備金がそれぞれ2,664百万円、その他資本剰余金が10,766百万円増加し、自己株式が1,465百万円減少しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金は9,698百万円、資本剰余金は20,427百万円、自己株式は△19百万円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	メディアプラッ トフォーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	60,025	8,240	68,265	—	68,265
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5	5	△5	—
計	60,025	8,245	68,271	△5	68,265
セグメント利益	29,825	1,868	31,693	△1,765	29,927
その他の項目					
減価償却費	19	72	92	44	136
のれん償却額	—	217	217	—	217

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,765百万円には、報告セグメントの減価償却費△92百万円及びのれん償却額△217百万円並びに各セグメントに配分していない全社費用△1,456百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	メディアプラッ トフォーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	140,303	9,981	150,285	—	150,285
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	7	7	△7	—
計	140,303	9,989	150,293	△7	150,285
セグメント利益	70,348	2,013	72,361	△5,056	67,305
その他の項目					
減価償却費	94	271	366	75	442
のれん償却額	—	1,751	1,751	—	1,751

(注) 1. セグメント利益の調整額△5,056百万円には、報告セグメントの減価償却費△366百万円及びのれん償却額△1,751百万円並びに各セグメントに配分していない全社費用△2,938百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結会計期間に「メディア・コンテンツ事業」「ライフイベント事業」としておりましたセグメントの名称を、前連結会計年度末から「エンターテインメント事業」「メディアプラットフォーム事業」に変更いたしました。

これは、平成27年3月にチケットフリマ事業を行う株式会社フンザ及び女性向けファッションコマース事業を行うミュージコー株式会社を取得したことを契機に、事業ポートフォリオの見直しを行ったこと及び継続して検討してきた主要サービス「モンスターストライク」を中心としたエンターテインメント事業戦略が確定したことに伴い、当社グループの報告セグメントの見直しを行ったことによるものです。

区分方法については、「メディア・コンテンツ事業」に属していた「モンスターストライク」に係る事業を新たに「エンターテインメント事業」に区分し、「メディア・コンテンツ事業」に属していたSNS「mixi」の運営に係る事業、「ライフイベント事業」に属していた事業、及び「その他」に属していた事業を新たに「メディアプラットフォーム事業」に区分しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の測定方法の変更

前連結会計年度から、報告セグメントの利益の測定方法を、減価償却費及びのれん償却額を考慮しない営業利益ベースの数値(EBITDA)に変更しております。

これは、平成27年3月に株式会社フンザ及びミュージコー株式会社を連結子会社化したことに伴い、今後ののれん償却額が多額に発生することが見込まれる状況において、報告セグメントの正常な収益力により業績評価を行う観点からは、減価償却費及びのれん償却額を考慮しない営業利益ベースの数値(EBITDA)に基づき報告セグメントの利益を測定することが合理的であると判断したことによります。

なお、前第3四半期連結累計期間の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」は、変更後の利益又は損失の測定方法により作成しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メディアプラットフォーム事業」セグメントにおいて、前連結会計年度に株式会社フンザの連結子会社化に伴い暫定的に算出されたのれん11,934百万円を計上しておりましたが、当第3四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了したことにより、356百万円減少しております。取得原価の配分の見直しによるのれんの修正額については、P11「3. 四半期連結財務諸表(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(企業結合等関係)」に記載のとおりであります。

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

## (株式会社フンザ)

## 1. 企業結合に係る暫定的な処理の確定

平成27年3月31日に行われた株式会社フンザとの企業結合について、前連結会計年度及び第2四半期連結累計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間において次のとおりで確定しております。

のれん(修正前)金額	11,934百万円
修正額	
・無形固定資産(商標権)の計上	△290百万円
・無形固定資産(顧客関係資産)の計上	△240百万円
・繰延税金負債の計上	173百万円
修正額計	△356百万円
のれん(修正後)の金額	11,577百万円

## 2. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1) 発生したのれん(金額) 11,577百万円  
 (2) 発生原因 取得原価が受け入れた資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。  
 (3) 償却方法及び償却期間 8年間の均等償却

## 3. のれん以外の無形固定資産に配分された金額、種類別の内訳、償却方法及び償却期間

種類別の内訳	金額	償却方法及び償却期間
商標権	290百万円	5年間の均等償却
顧客関係資産	240百万円	10ヶ月間の均等償却

## (ミュージコー株式会社)

## 1. 企業結合に係る暫定的な処理の確定

平成27年3月31日に行われたミュージコー株式会社との企業結合について、前連結会計年度及び第2四半期連結累計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間において確定しております。なお、のれん(金額)に修正は生じておりません。

## 2. 発生したのれん(金額)、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1) 発生したのれん(金額) 1,891百万円  
 (2) 発生原因 取得原価が受け入れた資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しております。  
 (3) 償却方法及び償却期間 3年間の均等償却

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。